

柳原地区住民自治協議会だより

すきです

やなぎはら

2020mar.15

Vol.47

ありがとう

たくさんの支援を 応援を

防災講演会

災害にだって負けない人とまち

災害にだって負けない人とまち

	緊急時	復旧期	復興期
住民	避難、救助、救護、情報収集、被害状況の把握	被害状況の確認、生活の再建	生活の再建、地域活性化
行政	避難所運営、物資供給、被害調査	生活再建支援、生活再建支援	生活再建支援、生活再建支援
支援	物資供給、生活再建支援	生活再建支援、生活再建支援	生活再建支援、生活再建支援

「災害にだって負けない人とまち」

10月の千曲川破堤で被害を受けた長沼・豊野で支援活動を実践している〈災害NGO結〉代表 前原士武まえはらとむさんに、発災後の心構えや災害への備えについて聞きました。午後は、区ごとに分かれて話し合い。

災害現場を飛び回る前原さんの講演を聞いて、地区に必要な事は、普段からの人と人のつながり、助け合う気持ちを持つ事、なおかつ人任せではなく自らできる事で動き、行動する時は賛同してもらえ、人を集め、協力しあう事で早急に対応し、災害を最小限にできることだと感じた。

今は、昔の井戸端会議的な事も無いので、隣近所のコミュニケーションが薄れてきている。

いざ避難が必要な時は、早い時期の声掛けと行動する仲間を作る事が必要だと感じている。

これからはいろいろな防災を考へなければならぬが、今回の講演をお聞きして、より早く行動できるか、次は何をするべきかの行動パターンの指示が出せるような体制を作りたいと思った。



◆ 前原さんの話を聞きNGO（非政府間組織の略）活動で生活している人がいることに驚きを感じました。

◆ 前原士武さんの話を聞いて、祭の持つ意義を再度考えさせられた。しあわせとは、昨日の暮らしが、今日も変わらずに続けられることではないか。昨日の暮らしを奪い去るのが災害だとすれば、災害からの復興とは、昨日までの暮らしを取り戻すことであると思う。

それは、祭の持つ力が大きい。「祭は、『できる人が、できることを、できるときに行う』ことの集大成である。金のある商人が金を出して、神輿を作る技を持った大工が神輿を作り、力のある若者が神輿を担ぐ。農家から提供された新鮮な食材を、腕のいい料理人が祭の御馳走にして皆に振る舞う。」の話が印象的だった。

このように住民一人ひとりの力によって成り立っている祭を行うことによって、自分は何をしたら祭が成功するかを普段から考えるようになる。

そして、ひとたび災害が起こったときには、復興のために自分には何ができるかを考えて実行していくことができる。だから、住民皆が祭を盛り上げようと取り組むことによって、「災害になんか負けないまちと人づくり」ができるのではないだろうか。

未来という「復興の花」を咲かせる為に必要な4つの要素 土・風・水・光



誰でも何等かの役回りになれる！
 地域の中で活動を行う「土」の人
 地域に種を運んでくれる「風」の人
 地域に元気を注いでくれる「水」の人
 地域に太陽のような「光」の人

*** 写真に見る柳原の今昔 ***

時代は平成から令和へと移り、昭和も終わって30年余りたちました。そこで、昭和から平成のちょっと懐かしい風景や建物、行事など現代と対比できる写真や人々の生活の様子がわかる写真を集めます。みなさんのお宅にも、ちょっと懐かしい写真ありませんか!! 連絡を待っています。



国道18号柳原交差点付近にあった移転する前の丸西さんです



昭和38年6月2日

か判らない、柳原地区も公的機関から出る「警戒レベル3または4」に従い行動を起こすことが如何に大切な事か思い知らされた。
当地区は排水機場を二つ抱え、千曲川が天井川になる事が度々あり増水に慣れてしまっただけに、この教訓を風化させないことが一番大事なことではないか!!



備蓄ツキング

〈ながの防災災害ネットワークみらい〉のみなさんの協力で災害時を想定しての調理方法を試してみました。

カップラーメンはあるけど、電気もガスも使えないのでお湯が沸かせない：水？牛乳？ジュース？包丁・まな板などを使わないで乾物など常備品で作るスープやおかずなど。



男女共同参画セミナー 会津勉男（男女共同参画推進員）

昨年引き続き築山秀夫長野県立大学教授による「男女共同参画から個人の尊厳へ一人間の尊厳を軽んじない・差別のない社会が日本を救う」と題した男女共同参画セミナーが開催されました。講演会の概要とそれを聴いた感想を述べてみたいと思います。

築山先生は、「私の話を聴いた後は暗い気持ちになりますよ」と言って、次のようなデータを示しながら、この20年間で日本が世界から取り残されてしまった現実を話してくれました。

日本の少子化は、若者が結婚できなから子供が生まれないうところに原因がある。日本女性の結婚条件である年収400万円以上の男性は、30代後半でも約6割しかないため、フルタイムで働けば平均的な収入を得られるように、労働者の賃金水準を上げる必要がある。

今の日本は、税負担率が27・3%で、48%のデンマークに比べると、極端に低く、その結果、日本の被災地の避難所は、温かい食事が食べられ、ベッドで眠ることができないイタリアと比較すると、質が極端に劣る。

日本の女性議員の割合は、193か国中165番目で、日本の女性の大学進学率は、OECD加盟国中で最低である。女性に教育投資をしても回収できないので、男性に投資した方が合理的だと考えるからである。

今の日本社会は、リスクを個人で負う、自己責任型の社会であり、



人々の価値観に国家や権力者が介入する社会であり、男女の賃金格差があり、女性に生まれたことで大きなハンディがある社会である。そんな日本の現状は、相対的貧困率は38か国中27位、教育に対する公的支出のGDP比は、43か国中40位、失業に対する公的支出のGDP比は34か国中31位となっている。

日本では不景気を乗り切るために、派遣労働者を増やし、非正規雇用を35%にまで増大させ賃金を抑制した結果、企業の手元現金が506兆円を超え、2013年3月に比べて3倍に膨らんでいる。消費税の導入によって282兆円の税収があったが、法人減税額は255兆円で、増税しても社会保障はよくなっていない。相対的貧困率は、シングルマザーの世帯が約50%と世界一高く、子供貧困格差は、日本が先進41か国中34位で、ワースト8位となっている。日本の所得格差は縮まらず、女性の賃金は、男性の73%で、イタリアに比べて20%以上の開きがある。その結果、男女平等ランキングが、

日本は過去最低となっている。そこで築山先生は、こうした現状を打開するためには、社会全体に関わる普遍性のある規範的理念（公平、公正、人権の尊重、差別の撤廃、多様性の尊重など）の実現をめざす必要があると主張します。それには、日常的な福祉政策においても、人々を分断する残余主義を採用するのではなく、普遍主義的な政策を採用することが、人々の不安を解消し、経済を活性化させる閉塞した日本社会を変革することに繋がるのだといいます。

ところが、日本の男女共同参画法は、「できる限り行わなければならない」とか「努めるものとする」と規定されていて、義務ではありません。一方、外国では、積極的は正措置をとることによって、女性議員は増加し、閣僚も増え、政治を変えていくエンジンになっているといえます。

若者世代は、コミュニケーション能力を求められて、空気を読み、波風の立たない関係を優先するので、批判や対立を作り出す野党の姿勢は、嫌悪の対象となっています。共感と寛容という世界の若者共通の傾向が、日本では現状維持、批判しても変わらないという無力感、諦念となってしまっていて、若者に社会の変革を求めることは期待できません。

このため、築山先生は、女性が社会を変えることに期待して、積極的に行動する。そのためには、クォータ制の導入しかなく、身近な住民自治協議会から変えようという結論付けました。まず宣言して変える！生活のこと、生活の政治のこのプロである女性が、役員の

3割になるようにしようと提案されました。

この提案を受けて、柳原地区住民自治協議会ではどうすればいいでしょうか。日本の政治はすぐには変わらないから、私たちができる身の回りのことから変えていこうという考えに私は共感できます。私たちの身近な暮らしが少しでもよくなれば、柳原地区で育った若者が、将来地元に戻ってきて、社会が変わっていくかもしれません。そのためにまずは、築山先生と一緒に、できることから身近な社会を変える取組みをしてみようではないかと。そして、これからは私たちができることから実行していくというアクションプログラムを実行する段階に入っていくべきではないかと思えます。

各地域公民館事業

- ・小島区 餅つき大会
- ・中俣区 中俣歴史散歩
- ・布野区 子供科学工作教室
- ・村山区 子供わくわく広場



柳原団地区 段ボール工作



「いつもの味」を常に備蓄 ローリングストック

普段から
少し多めの
食材を用意



特別に何か用意しなくても「普段の生活の延長」で無理なくできる備えがたくさんあるということです。多めに備えているものを日常の中で消費していくため、特別な準備は必要ありません。災害時に自宅で当面生活することが可能となります。備蓄する食料が古くなってしまわないよう、消費の際には、必ず一番古いものから使うようにしましょう。もちろん保存食を備蓄しておくことも大切なことです。

賞味期限が近づいてきたら、普段の料理に使い消費できるので、無駄にもなりません。自分の好きなお菓子なども入れておくといざというとき安心です。

ありがとうございます

令和元年台風19号「長野市災害義援金」

募金合計 1,820,491円

長野市災害義援金配分委員会で協議のうえ、長野市の被災者の方々に届けられます。

ボランティアで協力してくれたみなさん、野菜や果物・物資の提供をしてくれたみなさん、ありがとうございます。これからもいろいろなかたちで寄りそっていきたいです。



温泉と健康

福祉のまちづくりの講演会として、「地球からの贈り物——温泉と健康」が行われました。温泉通の飯島氏は日本の温泉地や欧州の温泉保養地など体験を通して、医学・健康の観点から温泉の楽しみ方を伝授していただきました。「美人の湯」「胃腸の湯」などさまざまな効能をうたう日本各地の温泉を肌で体験し、由来や根拠を記者の目で探った分析等講演をいただきました。

長野には身近に沢山の温泉がありますし、家庭用入浴剤でも効果のあることを知り、日々活用していきたいと思えます。



献花を捧げて戦没者を追悼
ご冥福を祈りました

戦没者追悼式



世代間を超えて住民同士の親睦
を深めるよい一日になりました

地区運動会

優勝：村山地区
2位：小島地区
3位：布野地区

内科・呼吸器科・アレルギー科
中島医院
柳原 2222-6 TEL295-0600
統合医療センターすこやか
(パーキンソン病、慢性疲労など)

「あたたかい心、やさしい手」24時間、365日 安心をサポートします。

ケアライフ柳原第2 (介護付き有料老人ホーム)
長野市柳原2223番地1 TEL026-255-7716

ケアライフ柳原 (介護付き有料老人ホーム)
長野市小島785番地 TEL026-236-8200
お気軽にお問い合わせ下さい
エフビー介護サービス株式会社

柳原のまちづくりに参加してみませんか！

地域活動に関心がある方
やる気のある方
事務局で一緒に働きませんか！
まずはお問合せ下さい。

にいざわ皮ふ科

長野市柳原 2221-6
TEL.026-255-7238/FAX.026-255-7335

編集後記 「つながる」 誰かとつながる。何かでつながる。待っていてもいいけど、自分から一歩踏み出してみよう！ [あ]

柳原地区住民自治協議会
長野市小島 804-5 柳原総合市民センター内 TEL・FAX217-2365

いきいき わがまち やなぎはら

E-mail : yanagihara-jiti2365@drive.ocn.ne.jp
お気軽にお立ち寄りください。